

## 第6期生 卒業エッセイ

### 小野ゼミでよかった

第6期生 浅坂 絵美

1月18日オープンゼミ。この日を最後に私たち6期の2年間のゼミ活動は終わった。最後のゼミだという実感は全くありませんでしたが、小野先生からのお言葉、そして景光のスピーチと、だんだん胸が熱くなっていくのを感じました。もうこれで最後なのだ…。その時私は何ともいえない感動と同時に寂しさを覚えました。小野ゼミのこと、本当に好きだったのだなーと改めて感じた瞬間でした。

病気知らずの私でしたが、大学入学直後、体調を少し崩しました。高校までやってきたスポーツもできなくなり、かつサークル選びに出遅れた私は、やりたいことが見つからず、なんとなく毎日を過ごしていました。楽だけど、なんか物足りない生活。友達との関係はなんだか希薄。「大学生活これを頑張った！」と胸を張って言いたい。そんな時に会ったのが小野ゼミでした。そして今早くも2年間で過ぎようとしています。今パソコンに向かって何を書こうか考えを巡らせていますが、何から書けばいいのかかわからない、というのが正直なところ。小野ゼミでの2年間、色々なことがありすぎて、上手いこと整理することができません。それくらい、小野ゼミは私に濃密な時間を与えてくれました。

2007年12月10日のオープンゼミ。小野先生が「ゼミを通して得られる学友」についておっしゃっていたのを思い出します。私はこの「学友」という言葉に強く惹かれました。というのも、前述したとおり、日吉時代につくった友達との関係は少しばかり希薄だな、と正直感じていたのです。小野ゼミは、仲間と議論をし、一緒に1つのものを創り出すという場を多く与えてくれたゼミであり、小野ゼミで出会った仲間は文字通り、学友でした。そしてこれだけの時間を共にし、試練を乗り越えてきた仲間との間には信頼というものが自然と生まれてくるものだなあ、と改めて感じています。やばいやばいと焦りながらも、一緒に朝までやっていたのを懐かしく感じると同時に、今では寂しさも残ります。よく大学で出会った友達は一生の友達、といいますが、私にとって小野ゼミで出会ったメンバーは間違えなく一生の友達です。

また、この2年間で振り返るとき、小野ゼミのOGの方が最近おっしゃっていた言葉を思い出します。

それは日頃から目標をもってゼミに取り組むことで得られるものが全然違ってくるとのこと。ただ小野ゼミにいるだけではダメだということです。目標を持つことが大切だということは誰しもが感じていることだとは思いますが、私は改めてその大切さを痛感します。ゼミや課題に対して毎回目標や意味を見出して取り組んできたかという、私は恐らくできていませんでした。もしそのような意識でやっていたら...と思ってしまう部分が今更ながらありますが、だからこそ、今私は改めて目標を持つことの大切さを感じます。



前期納会にて（著者は左端）